

第1回真鶴町学校建設準備委員会 議事録（要約）

日時：令和5年6月28日（水）14時00分～16時30分

場所：真鶴町民センター3階 講堂

教育長挨拶

- ・前任からの引き継ぎで大きかった課題は、校舎の老朽化と中学校給食。昨年度から少しずつ方向性を見出し、新たな学校を創るという目標に向けて、ようやくスタートラインに立つことができたという思い。
- ・学校建設にあたっては、最終的に教育委員会と町とで「基本計画」を作るわけだが、この学校建設準備委員会では、その前段階として基本構想、基本的な考え方を練ることになる。
- ・委員の皆さんの思いを一つ一つ積み上げ、基本構想、基本的な考え方をまとめていきたい。委員の皆さんに協力をいただきながら、有意義な委員会になるよう、よろしく願いたい。
- ・この学校建設準備委員会は、今のところ2年計画で考えているが、話し合いの進み具合によっては延長もあり得る。それだけ、重要な話し合いの場であるということ。

自己紹介

- ・瀬藤委員 … 過去に真鶴町教育委員会で社会教育主事として従事。
- ・長澤委員 … 建築計画が専門。全国の都道府県で学校建設に関わり、あと3つで全国制覇。
- ・竹原委員 … 神奈川県初の東山田中学校のCSに関わる。文部科学省のCSマイスター。
- ・藤井委員 … 公募枠。竹中工務店で設計を担当。5年前に真鶴町に移住。まなぶるコアメンバー。
- ・玉田委員 … 公募枠。6年前に真鶴町に移住。真鶴未来塾代表。「共育」を推進。
- ・山口委員 … 幼稚園PTA代表。15年ほど前に移住。小規模校を自ら経験。
- ・勝山委員 … 小中学校PTA会長。一保護者として参加。
- ・朝倉委員 … 自治会連合会会長。20年間自治会活動に携わる。防犯パトロール活動に注力。
- ・古川委員 … 民生児童委員協議会代表。現在、幼稚園で英語活動指導員として活動。
- ・伊藤委員 … 人権擁護委員代表。今までの様々な経験をこの委員会で生かしたい。
- ・倉澤委員 … ひなづる幼稚園長。園長2年目。過去を振り返りながら思いを伝えたい。
- ・露木委員 … まなづる小学校長。繋がりという言葉は真鶴町のためにあると感じる。
- ・市川委員 … 真鶴中学校長。真鶴町出身で母校に赴任4年目。地域・保護者の支えに感謝。
- ・瀧本委員 … 教育委員代表。40年前に岩小学校に勤務。現在、社会福祉士として活動。
- ・上甲委員 … 参事兼財務課長兼上下水道課長。町職員として初の社会教育主事も経験。

委員長・副委員長の選出

- ・委員長に瀧本委員、副委員長に長澤委員を互選で決定。

委員長挨拶

- ・皆さんの顔が見える場所が委員長の席。職員室であれば教頭先生の席、国会であれば議長の席。必要に応じて休憩を取ったり、質問を受けたり、皆さんの表情を伺いながら進めていきたい。喜怒哀楽は表情で表現していただければと思う。
- ・発言の内容を確認し、要約したものを付箋に書き込み模造紙に貼り出していく。事務局の負担を減らす意味でも、それを写真に撮り記録としてホームページに上げていきたい。協力をお願いしたい。

これまでの経緯についての説明

○真鶴町学校施設個別施設（長寿命化）計画について

- ・令和3年3月に報告書が出された。
- ・ひなづる幼稚園は長寿命化に適さない、建設後42年が経過し建物の老朽化が進んでいる、2030年代後半に更新時期を迎えるとされている。
- ・まなづる小学校は校舎及び屋内運動場ともに長寿命化に適さない、建物の老朽化が進んでいる、校舎及び屋内運動場ともに2030年代の半ばに更新時期を迎えるとされている。
- ・真鶴中学校は校舎及び屋内運動場ともに長寿命化に適さない、校舎は老朽化が進行しており屋内運動場は更新時期を迎えている、2030年代後半に更新時期を迎えるとされている。

○令和3年度真鶴町中学校給食実施計画調査報告書について

- ・令和3年9月に報告書が出された。
- ・施設整備費に自校方式で約4億5百万円、センター方式で約8億8千4百万円、親子方式でも約2億3千6百万円かかると試算された。
- ・建設期間も、2年から3年近くかかると報告された。

○真鶴町学校教育あり方検討会報告書について

- ・令和元年10月に発足し、昨年7月に提言として報告書がまとめられた。
- ・「これからの真鶴町の子ども像」として多様性を尊重できる子、関わる力をもった子、創り出す力をもった子、発信する力をもった子、心の豊かな子、ふるさとを大切にする子の6つの子ども像が示された。
- ・そのような子どもを育てるための教育活動として、幼児期・小中学校期ともに、「交流」と「多様性」をキーワードとした教育活動が重要であるとされた。
- ・この「これからの真鶴町の子ども像」と「真鶴町でこれから重視すべき教育活動」が本委員会の話し合いのベースとなる。
- ・「これからめざすべき学校教育の姿」や「将来の教育施設」については、要約すると「今まで真鶴町が着実に進めてきた幼（保）小中一貫教育を、より一層推進することが重要である」「交流と多様性を重視した活動を実現するためには、施設一体型または施設隣接型の幼小中一貫教育校が望ましい」「中学校給食の開始は、費用対効果を考え、新たな校舎の建設に合わせて検討することが妥当である」となる。

○新たな学校づくり市内検討委員会の検討内容について

- ・学校建設に関わる基礎的なデータや条件を整理する目的で、町役場の関係部署の主要メンバーにより昨年10月に立ち上げられた。
- ・検討内容は決定事項ではなく、今後話し合いを進める上での参考資料である。例えば、仮に30億円の建設費がかかった場合、国庫補助や過疎債などを充てた上で、4億5百万円が町の一般財源として必要になる。また、まなづる小学校と真鶴中学校の敷地面積、現在の小学校と中学校の区域の高さ制限などが載っている。

各委員の「新しい学校にかける思い」

○上甲委員

- ・完全給食の実施や新たな学校建設をどのように進めていくべきか、専門的な立場の方々からの意見をいただきながら、委員会としての考えをまとめていくものと認識している。
- ・真鶴町の特性を生かしつつ教育課程や防災・安全、地域との連携、インクルーシブ教育、バリアフリーなどを考慮しながら、主体は子どもたちである、子どもたちのためにあるという考えを軸にし、真鶴町で教育を受けたすべての子どもたちが、将来自立できるための教育や施設整備を進めていくべきであるとする。
- ・そのためには学校、地域、行政が一体となり、みんなが関わられるような学校づくりをめざしたい。平成28年に地域福祉計画の作成に携わったが、そのコンセプトは「家に住むのではなく、この町に住む」というものだった。そのことが実現できるような、この町すべてで子どもたちの教育をし、私たちが成長できるような学校づくりに関わっていけたらと思う。

○瀬瀬委員

- ・真鶴町にしかできないような、全国に誇れる素晴らしい学校にしたい。石材業、漁業、お林などを学校づくりに取り入れたい。こんな学校であれば移り住みたいと思ってもらえるような学校にしたい。
- ・学校の公民館化が個人的な夢である。例えば、編み物をやっているお年寄りところに子どもがやって来て「ねえねえ、教えて」と関わってみたり、大人が子どもの教室に入って一緒に英語の授業を受けたりするなど。子どもにも地域の方にも、学べる場、集える場であってほしい。
- ・大人も含めて、学び直しができる学校であって欲しい。そのためにも一貫教育校が良いと思う。中学生が分数など算数でつまずいたところを、小学校の先生に教えてもらうなど。
- ・幼保も含めた一貫教育校ができるのか、敷地や生活のリズム等を考えた場合心配である。

○市川委員

- ・オープンスペースを多く設けたい。少人数の良さを生かして、のんびり、ゆったりとした教室環境になれば良いと思う。
- ・昨年度、地域の岩音頭、真鶴音頭を、保存会の方々の指南を受け3年生が体験した。自分が小中学生の頃は、運動会で必ず岩音頭、真鶴音頭を発表し、そのような交流が以前は自然とできていた。学校の中で地域の方々が活動され、子どもたちと自然に交流が深められるようになると良いと感じた。地域の文化に触れられる学校であって欲しい。

- ・とりあえず、現時点では小中一貫で学校づくりを進められたらと思う。小学校の先生が中学校の授業のサポートに入りやすい、また、中学校の先生が小学校で授業を行いやすい施設であって欲しいと思う。

○露木委員

- ・「この町が好き」と言える子を育てる学校にしたい。「私、真鶴町の出身なんです。」という言葉を知ったときに、改めて真鶴町は素敵な町だと感じる。真鶴町の魅力を感じていけるような、真鶴を自慢できるような学校であって欲しい。
- ・幼小中の子どもたちが、一つ屋根の下に集まることができたら素敵だなと思う。“きょうだい”のようなつながりができるのではないかな。今も学校には予備的な教室が多いが、ふっとおしゃべりができるような広い空間、みんなが顔と名前を知っているような温かい空間があればと思う。12歳の違いは、大きな学びにつながるのではないかなと思う。

○倉澤委員

- ・学校や教育委員会で27年間、真鶴町の教育に携わってきた。
- ・町の基本方針である「教育は人づくり、人づくりは町づくり、町の未来づくり」というキーワードは、絶対に新しい学校にもつなげていく必要がある。特に学校教育と社会教育が連携・協働した町づくりは、これまでも行われてきた。地域に根ざした学校づくりを土台として、町の生涯学習の拠点、防災拠点などの視点も考えて欲しい。
- ・12年間の子どもの育ちを大切にした連携教育も、長く取り組んできており、カリキュラムの編成も幼小中合同教育研究会で研究し始めている。しかし、施設が離れていることにより、一貫した教育までには至っていないので、できれば小学校・中学校は一つの施設で教育を行えたらと思う。ただし、民間の保育園を含めた町の幼児教育を考えた場合、このままの形では無理があるようにも思うし、だからと言って教育施設を一か所に集めてしまっても良いものか、悩むところである。建物だけではなく、教育のシステムづくりも一緒に検討していきたい。

○伊藤委員

- ・少し抽象的になってしまうが、学校は子どもたちの学びの場でなければならないと思う。まずそれを基本にして、家族のような関係性が学校で育まれればと考える。町には家族がいて、いつでも帰って来られるような気持ちを育てていきたい。
- ・大人も何かを学べる場にして欲しい。「時間があるからちょっと行ってみよう」とか「行けば何か学べるね」といつも思ってもらえるような、そして、「また行ってみたいな」と言ってもらえるような、そんな学校であればと思う。

○古川委員

- ・以前、加藤元校長先生から「支援級の子どもたちが幸せな学校は、良い学校なんだよ。」と教えられた。それ以来、学校に行くとき支援級を中心に見させてもらっている。幼稚園も小学校も中学校も、本当に手厚く教育をされていると思う。歴代の校長先生、教育長が築いてくださったものと思う。真鶴の誇りである。以前に比べ、個が目立つ時代になったなと思う。個に応じた学習支援が行われる時代で、それを真鶴町は手厚くしてくださっている。そのような教育を、これからも続けていきたい。

- ・学校はコミュニティの場である。ご高齢の方も障害のある方もみんなが集まれて、それぞれに何か役に立てることがあるような場であって欲しい。子どもが遊んでいる場面を見て、一言二言話をしたりする接点があると良いと思う。コミュニティスクールになって欲しい。
- ・高校が町内になく、高校生になるとふるさと教育に関われなくなってしまふ。それをつないでくれるものがあると良いと思う。大学生も含めた若者たちをサポートすることも、自分たちの務めだと思う。みんなの学びの場であって欲しい。

○朝倉委員

- ・ソフトとハードに分けて考える必要があると思う。
- ・ソフト面ではふるさと教育を大切にしたい。郷土愛を育む教育を一貫校の中でやって欲しい。自分も小学校で岩音頭、中学校で真鶴音頭を踊っており、ふるさと教育を第一に考えたい。
- ・資料から子どもの数が大きく減少していくことが分かる。令和14年になると全クラス20人以下となり、令和25年頃から増えるように推計されているが、全国の出生率の低下は著しい。国の調査でも、2022年には出生数が80万人を切ったとされ、当初より11年早くなっている。実際には資料の数字より悪化していると考えられる。人数が少なくなれば、一人分のスペースは広がるが、推計より少なくなっていることを想定してハード面を考えていただきたい。もしかして増えることも考えられるので、校舎を増築できるようにしておくことも必要かと思う。

○山口委員

- ・通学路を含めて、安全・安心であることが大切だと思う。災害時には避難場所になると思うので、この機会に環境・設備を整えておくことも重要である。地域の方にとっても、安全・安心な場所になれば良いと思う。
- ・真鶴町の子どもたちは、自然や人と人とのつながりを大切に思っていると思う。そこは継続していき、新たに多様性なども取り入れながら、地域の方も学べるような多目的に使える学校になって欲しい。

○玉田委員

- ・「今日、学校で何しよう」と思えるような学校が良い。毎日、子どもたちがわくわくして通えるような学校が良い。学校が子どもに合わせるような学校になれば良いと思う。
- ・「生き延びる」というテーマのもと、将来食べ物は十分にあるのか、将来戦争が起きることはないのか、保護者としては気になる場所である。学校の中の畑で作物を育てたり、生き物を飼育したりして、それを理科や食育、家庭科につなげたい。「生き延びる」をテーマに、自分たちの力で食べていけるということを大事にしたい。
- ・先生たちが働きやすい環境も重要である。毎日忙しそうなので、できるだけ負荷を減らし、先生たちの休憩場所が学校にあっても良いと思う。先生が頑張らなければいけない学校は必要ない。先生たちに余白、隙間を作ってあげることが、子どもたちへの教育に良い影響を与えるのではないかと思う。先生たちの声も、ぜひ学校づくりに反映させて欲しい。
- ・新しい学校ができるのは何年も先になるので、今の子育て世代でさえ関心が薄れがちになる。そういう意味でも年3回の「教育を語り合う会」は重要で、顔が見える関係で多様な意見を出し合いながら、町民の願いが込められたものになればと思う。

○藤井委員

- ・校舎構想の段階から、みんなが関われる学校づくりになればと思う。子どものためだけの学校と捉えてしまうと、どうしても想像の中での議論になってしまう。誰でも使える場になるとか、できた暁には自分のためにもなると自分事として町民が思えるような、建設のプロセスになると良いと思う。高校生や大学生も学校に戻って来れるような学校にしたい。美の基準を盛り込んで、町のみんなで作って、町のみんなで守っていくという意識が高められるような学校建設になれば良いと思う。
- ・学校というところは、楽しい場面だけでなく、少し辛い場面もある。研鑽する、頑張る場所もありつつ、力を抜ける場所もあるメリハリのある校舎として、みんなにとってそれぞれに居場所のある学校がよいと思う。
- ・学校を、建設する校舎だけにとらわれないで、町全体を学ぶ場所と捉え、既存の公民施設のネットワーク化も考えて行って欲しい。大人の働き方もテレワークなど変化してきている中で、子どもたちも学校だけにとらわれない学びの場が広く開かれていくと、より刺激が受けられるのではないかと思う。さらに大人のワーケーションと同じように、町外の子どもたちにも新たな学びの場となる可能性が真鶴町にはあると思う。

○勝山委員

- ・建設準備委員会は何回開く予定なのか。（回答：最低でも10回）
- ・最終的にどこまで考えるのか。（回答：建設場所、校舎の形、カリキュラムなど）
- ・あり方検討会と何が違うのか。皆さんが思い描いている理想の学校は、たぶんできると思う。できないとすれば、それはお金の問題だと思う。町としていくら使えるのか。見積もりを出せると思うから、そこから初めて何ができるのか考えることができる。まずは、そこが最初だと思う。この会議でも血税から報酬をもらっている。責任を持って参加したいし、時間を無駄にしたくない。いくらぐらい建設費がかかるのか、どのくらい借金ができてしまうのか、町がいくら負担するのか、国からいくら補助してもらえるのか、そういうことを話し合わなければいけないのかなと思う。お金だけあれば、何でもできる。100億でも200億でもあれば、箱も土地も、先生の休憩場所も全部できる。でも、必ず限りがある。まずはそこを決めてからだと思う。エレベーターを付けようとか、自家発電にしようとか、お金さえあれば何でもできる。そこを決めないと、理想論になり堂々巡りになる。校舎を建てるのにいくらかかるのか、何年かかるのか、その間の仮設はどこなのか、まずはそこからだと思う。

○朝倉委員

- ・両方大事だと思う。思いもあれば現実もあるのではないか。資料には30億円建設費がかかる場合は、4億5百万円の一般財源が必要だと、ちゃんと出ている。

○瀧本委員長

- ・あり方検討会の後に組織された庁内検討委員会で調べた内容が資料に出ている。例えばとして、建設費に対する一般財源の額が示されている。
- ・同じあり方検討会のメンバーとして、勝山委員と同じ思いもあるが、実際に作らなければいけない校舎をどういったものにして、真鶴町の教育をどういったものにしていくのか、今はそこ

の話し合いをしている。申し訳ないが、お金のことを出されてもここでは前に進めない。それは町長部局に任せるしかない。この委員会は、新しい学校づくりに対する考え方を出していくという場である。

- ・小田原で学校の建設にも関わり、先生たちがいろいろなアイデアを出したが、その後予算が削られ、実現できなかった経験をした。しかし、あの校舎を作ることによって子ども、保護者が変わった。当然、先生も変わった。先生たちの研究の仕方が変わった。廊下との間に壁がない教室で、どうやって授業を組み立てていくか、子どもたちにどんな力を付けさせるのか、先生たちが話し合った。
- ・2030年頃までに校舎を作らなければいけないことは大前提だと思う。お金のことは町に任せたとしても、その教育の内容や、できた後の学校についての考え方は、私たちがしっかりと申し入れていかなければいけないと思う。そのために皆さんの意見を聞き合いながら進めている。夢がなければ現実は良くなれないと思う。一緒に考えてもらえたらと思う。

○朝倉委員

- ・情報センターをはじめ、施設を作るとメンテナンスにお金がかかる。防災拠点は必要であるが、何かを作るとその維持費がかかる。人口が少なくなっていく中で、その視点も忘れないで欲しい。総合計画などに関わっているが、美術館の維持など、文化も大切だが町としての負担も大きい。子どもたちのことを考えて学校を作るとは最優先であり、もちろん大事だと思うが、私たちは多面的に考えて夢を語る必要があると思う。町の財政は非常に厳しいと思う。

○瀧本委員長

- ・維持費については課題として捉えていきたいと思う。子どもたちのためだけの学校ではないという視点、自分事として考えることも大切にしたい。

○竹原委員

- ・まず、空間としての学校を考えたい。学校は町の核であり、最大の公共施設である。それは学校教育だけでなく、放課後の居場所であったり防災拠点であったり、みんなの場であると思う。コミュニティの場であると同時に、誰にとってもサードプレイスである。家と学校・職場以外のもう一つの自分の場所になることが重要。会議などではなく、雑談の中からもいろいろな人と交流する場になっていくことが大切。平成17年にできた新設校、横浜市立東山田中学校のコミュニティスペースに11年間関わってきて、そこでは多くの化学変化が起き、地域と学校がつながり、子どもたちの新しい学びが生まれた。「場」に力があると確信を持っている。
- ・15歳までに地域の文化や歴史を体験的に深く学び、地域の人たちとつながりができた子どもは、のちに地域の担い手になるというデータが国の調査などで示されている。地域の人たちとの双方向性の学びがあれば良いと思う。用があってもなくても集まれる場所であって欲しい。
- ・社会に開かれた教育課程を進めるということで、学んだことを社会に生かす、地域社会から学ぶ、地域社会との出会いから学ぶことが、今の日本の教育で重要視されている。リアルな学び、出会いの中での学びが大切で、何かを創り出す子ども、実行力のある子どもを育てることが求められている。それができる環境を、ハード面でもソフト面でも用意する必要がある。子

ども同士、子どもと大人、大人同士、いろいろなつながりを町内にネットワークとして築き、子どもを核にして「チーム学校」になることが大切。そして、コミュニティスクールという仕組みを取り入れると良いと思う。それによって、地域のつながりが深まり持続性が高まり、社会総がかりで子どもを育てることが可能になる。

○長澤副委員長

- ・今日は第1回目で夢を語り合うということだった。学校建設に関わってきて、常に夢を追い求めてきた。夢を育む、夢を膨らませる。まず、夢がなければ物ごとは始まらない。吉田松陰の言葉に「夢あるところに構想あり、構想あるところに計画あり、計画あるところに実行あり、実行あるところに成功あり。故に夢あるところに成功あり。」この委員会はあり方検討会と違って、夢をどう具体的に実現するかを話し合うところ。その過程で、お金の話も出てくるが、夢を語り合って共有することが大切だと思う。その答えはどこかにあるものではなくて、創り出すもの。また、お金があれば確かに物は作れるが、それが人々の心に刺さるものになるかは何とも言えない。物は立派でも、やはりこのプロセスがないと自分たちの学校にはならない。
- ・皆さんの話は、真鶴町の良さ・魅力を確認し合って、真鶴町の学校を作ろうということだったと思う。自分にとっては刺激的だった。真鶴の学校が創り上げてきたものを、どうつないでいくかも大切になる。今日は朝から幼稚園、小学校、中学校を回らせてもらって、真鶴町は伝統的に学校を大切にしてきた町だと実感した。昭和50年代に建てられていると思うが、どこも力を入れて設計されていると感じた。町の姿勢がそれに表れている。授業中に特に遠慮することなく教室に入っていき園長先生・校長先生を見て、どこも先生同士の関係がとても好ましいと感じた。その関係性の中で子どもたちの日常を見ているという風土は、真鶴町の宝だと思う。
- ・子どもたちがとにかく明るいと感じた。中学生もごく自然に挨拶ができる。
- ・共用の空間がとても綺麗。これは学校が落ち着き、子どもたち同士、或いは子どもたちと先生たちとの関係が良いものだと感じた。幼稚園は園全体が子どもの生活の場になっている。小学校には至るところに額縁の絵が飾ってあり、豊かな環境になっている。古川委員からは、幼少期に英単語を覚えて自信になり、それが英語に携わるきっかけになったという話があったが、あの名画を見て何かを感じ取る子どももいるはずである。
- ・他にも自然に囲まれているとか、町全体を見渡せるロケーションに建っているとか、いろいろな宝や大切にしたいことをみんなで共有しながら、町民にも投げかけながら学校づくりを進めていきたい。次は、どこに学校を建てるかということになるが、その場所でできる教育の可能性を押しえながら、一つ一つ実現に向けてクリアしていきたい。
- ・真鶴町は財政的にいろいろと厳しい条件のようだが、それはどこも同じで、大変さを乗り越えるためには夢が必要である。考えをまとめて町民と共有し、夢の実現に向かうことが大切。
- ・この委員会では、学校ができた後のことも考えることになる。新しい学校をどのように支えていくか、その体制づくりを担うことも重要な任務となる。そのために、この委員会がある。町民みんなにとっての学校にしたいということが、それぞれ違う言葉で語られていたが、使いやすい施設にするには、それを使う人が計画に関わることが大切であり、それを発信できる人がここに集まっているのではないかと思う。

- ・財政については常に付きまとう問題であり、その時が来たら改めて議論を深めたいと思う。
- ・A I（愛）が生まれる学校にしたい。学び合い、出会い、ふれ合い、子どもたちへの愛情も。そのためには施設・空間にどのように余裕を持たせるかが重要になる。デジタル技術など、社会の変化に対応できるようにすることも大切。また、学び易いだけでなく、学び心地が良いことも大切。教え易いだけでなく、教え心地が良い。過ごし易いだけでなく、居心地が良い。この場所が好きだという気持ちが、さらに課題に向かっていこうとする姿勢、変化への対応力を育てる。建築学的には、空間の大切さが話題になる。「空間を居場所に、スペースをプレイスに。」プレイスにするのは、先生の力であり子ども力である。議論を重ねながら、ぜひそういう学校を作っていきたい。

○瀧本委員長

- ・自分にも夢があったが、時間も押しているので、今日は皆さんに夢を語ってもらうことを自分の夢にしておこうと思う。

○瀬藤委員

- ・長澤委員からは「真鶴町は教育を大切にしている町だと感じた」という言葉をいただいて、大変嬉しく思うし、これからもつないでいきたいと思う。
- ・この委員会を、楽しく前向きな意見で議論できる会にしたいと考えている。また、それができるメンバーに集まってもらっていると考えている。あり方検討会とは違い、この委員会はもっと具体的な内容を話し合うことになる。当然敷地や予算など条件は出てくるので、その時はどこかで折り合いを付けることになる。
- ・藤井委員からは、多くの方が自分事と思えるように、この学校づくりのプロセスに関わると良いというような話があったが、自分もこの15人で作っていくのではなく、教育を語り合う会も含めて学校の先生や子どもたちからも意見を聞いていこうと思う。それがすべて実現するかは別として、自分の気持ちを語ってもらうことが大切なプロセスだと思っている。
- ・人口が減り、子どもが減っていく中で、これからの学校は、子どもたちだけの学校ではないということだけははっきり言えると思う。地域の人たちが自分の学校なんだと思えるような学校を作っていきたい。そのために意見をいろいろ出していただいて、とにかく楽しく会を進めていきたい。それが、この会に対する自分の願いである。

次回のテーマについて

○瀧本委員長

- ・事務局から提案されているものが3点ある。一点目は「一貫教育校の形態について」。施設隣接型、施設一体型、義務教育学校などについて協議することになる。二点目は「建設場所について」。まなづる小なのか、真鶴中なのか、或いは他の敷地なのかを考えたい。三点目は「幼稚園・保育所の将来について」。一貫教育校に含むのか、そのままで行くのかなどを考えることになる。
- ・議論の参考になる資料は、事前に事務局から送ってもらうことにするので、読んでもらった上で次回からの話し合いを進めていきたい。

○長澤副委員長

- ・義務教育学校については、経験もない中、制度の説明を受けてもなかなか分かりづらいところもある。真鶴町と同じくらいの規模で、自分が最近関わった小中が一体となった義務教育学校があるので、次回に紹介させてもらう。パワーポイントの資料も、事前に事務局を通して送ることとする。

○瀧本委員長

- ・皆さんからいろいろな夢や思いを聞かせていただいた。これから新しい学校の実現に向けて、議論を深めていきたいと思う。

部会の設立について

○事務局から提案

- ・この委員会は、学校教育を中心とした一貫教育校を想定した組織なので、メンバーには保育所からは誰も加わっていない。次回のテーマにも入っていたが、就学前の子どもたちを一貫教育校に加えるかどうかは、非常に大きな課題となる。そこで、設置規則第7条に基づいて、「幼稚園・保育所の将来を考える部会」を立ち上げ、具体的なことを話し合っていたきたいと思う。メンバーは幼稚園長の倉澤委員をトップに、貴船愛児園と石田保育園の園長と所管課である教育課と福祉課で考えているがどうか。

○瀧本委員長

- ・皆さんいかがか。（承認）
- ・倉澤委員には、部会の様子を随時報告していただき、委員全員で共有していきたいと思う。

事務局から

- ・今後の日程確認をさせていただく。第2回が9月22日（金）、第3回が12月12日（火）、第4回が3月22日（金）となる。時間はいずれも午後2時開会。会場は町民センター。次回からの座席はくじ引きとする。
- ・「教育を語り合う会」を開催し、町民の方々にも新たな学校づくりに関わっていただこうと考えている。日程は第1回が7月22日（土）、第2回が11月18日（土）、第3回が2月17日（土）となる。
- ・これをもって「第1回学校建設準備委員会」を終了とさせていただく。ありがとうございました。